

十津川警部ドラマ 出演者インタビュー

町応援大使第1号西村京太郎さん原作の推理小説「十津川警部シリーズ」のトラベルミステリーの撮影が本町の各所で行われ、7月26日(日)午後9時からテレビ朝日系列で放送されます。出演された高橋英樹さんと高田純次さんにインタビューしました。

—実際に新十津川町に来た感想はいかがですか？

高橋 空気感が違いますね。町の光景や雰囲気を見るといい映像が撮れそうだと思いますし、ここへ来てよかったと思います。

—こちらに来て、北海道の寒さはいかがですか？

高田 北海道の冬を乗り越えるため、建物の暖房がしっかりしている印象です。実は北海道の方が寒さにはしっかり対応していて、北海道から東京に行ったら、かえって東京の方が寒いという人もいます(笑)。



高橋 東京の人は寒さに強くないですし、寒さに耐えながら撮影で台詞を言うのは、「やっている感」が出るので、なおさら、いいのかもしれないですね。

高田 セツかくなら寒い時期ではなく、夏の北海道をバイクで走りたいですね。実は20歳の時、バイクで北海道の各所を回ったことがあります。

—今回のドラマのテーマの一つ「札幌線の廃線」についてはいかがですか？

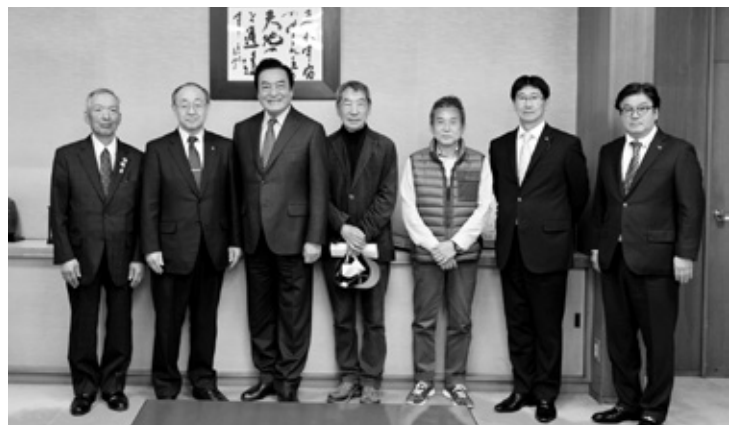
高橋 札幌線は歴史がある線路で、いろいろな方の思いがこもっていると感じます。始まりがあれば終わりもあるもので、終わりというのは何かの始まりだと思っんですよね。廃線によって何かが変わっていく

だろうと思いますし、今回の我々の映像で少しでも参加することで、廃線に関わることができのかなあと思っています。

—ドラマはどのような仕上がりになりそうですか？

高橋 今回は友情もテーマとなっていて、この町に育った人が友情を育みながら、それぞれの思いを持って人生を始め、鉄道の終わりと共に人生のラストランを迎える内容です。

—未来に向かって行ける人と、行けない人とのドラマが交錯して、それを線路に掛けて人生を考えると、ドラマですが、ミステリーとしても素敵な作品に仕上がると思っています。



左から3人目高橋英樹さん、村川透監督、河瀬光プロデューサー

—どんな方にドラマを見てほしいですか？

高橋 少しでも札幌線の記念になればと思っっていますので、町民、そして札幌線に関わった方に、ぜひご覧いただきたいです。

高田 とにかく、いろいろな方に見てほしいですね。

—特に町民の方には、最初から最後まで、コマースヤルも残さず見てほしいですね(笑)。

西村京太郎 トラベルミステリー72

「新十津川町・札沼線ラストラン」

7月26日(日)午後9時 テレビ朝日系列で放送決定



ドラマ撮影風景

この春に町でドラマ撮影が行われ、エキストラ出演や撮影場所の提供、炊き出しなど、町民皆さんの協力のもと、進められました。

撮影で町を訪れた俳優、監督、スタッフの方々は撮影への全面協力に対し、感激していました。

あいにくの雨や、風も強く肌寒い場面も多くありましたが、寒さに耐えながら、順調に撮影は行われました。

7月26日、無事に放送を迎えることとなりました。

